

1 教育目標

「至誠」「協和」「責任」の校訓のもと、自主・自立の精神と豊かな人間性を持ち、地域社会に貢献するために必要な力を育成する。
(スクール・ミッション)「ユコウ」を使った商品開発や「檜原の棚田」の保全活動など地域の資産を生かして、野菜・果樹や草花の生産・栽培と環境保全に関する専門的な知識・技術を習得し、人とのつながりを大切にする心と、地域産業を支える力を育成します。

2 教育方針（スクール・ポリシー）

【育成をめざす資質・能力に関する方針】〈このような力を育てます〉

- (1) 農業に関する専門的な知識や技能を身につけ活用できる力を育成します。
- (2) 農産物の生産・栽培をとおして地域社会に貢献する力を育成します。
- (3) 環境保全活動をとおして地域農業に貢献する力を育成します。
- (4) 6次産業化の取組をとおして地域産業を支える力を育成します。(応用生産科)
- (5) 草花を活用して、地域の活性化を担う力を育成します。(園芸福祉科)

【教育課程に関する方針】〈このような教育活動を行います〉

- (1) 基礎学力の定着を重視し、農業における基本的知識・技能を身につけます。
- (2) 農業科目の授業や実習をとおして命の大切さを学びます。
- (3) 「檜原の棚田」の保全活動に取り組みます。
- (4) 学校設定科目として「地域農業」及び「LED活用」を学習します。
- (5) 「ゆこう」を使った商品開発をします。(応用生産科)
- (6) 草花の栽培をとおして地域との交流を深める学習をします。(園芸福祉科)

【入学者の受入れに関する方針】〈このような生徒を待っています〉

- (1) 明確な目的意識を持ち、高校生活に取り組む生徒を募集します。
- (2) 農業科目の実習において、積極的に取り組む生徒を募集します。
- (3) 専門的な知識や技術の習得に根気強く取り組む生徒を募集します。
- (4) 地域連携や交流学習に積極的に参加する生徒を募集します。
- (5) 生徒会・部活動など、学校の活性化に意欲的に取り組む生徒を募集します。

3 本年度の重点目標

- ・学習習慣の確立を図り、基礎学力の定着と専門分野の知識・技術の確実な習得を図る。
- ・学校生活全般を通して、基本的生活習慣の確立と集団生活における規律向上を図る。
- ・「いじめは許されない」との共通理解の下、人権の尊重、支え合う人間関係を築く能力を養う。
- ・SDGsの推進と、主権者教育・消費者教育の充実を図り、生徒の実践力を育成する。
- ・家庭や地域社会との連携・協働により、地域とともにある学校づくりを推進する。
- ・GIGAスクール構想推進と積極的な情報発信により、魅力ある教育活動を創造する。

		自 己 評 価			意見や課題
重点課題	評価指標	活動計画	達成度	評価	
学習習慣の確立を図り、基礎学力の定着と専門分野の知識・技術の確実な習得を図る。	①ICT機器を活用した基礎学力の定着および向上 各学年で年1回実施 生徒の自己評価 80%以上 ②授業時間数の確保 授業実施率(2学期末現在)の向上 (実施授業時数)／(単位数)	・授業見学会 年間3回実施 生徒の意識等に関わる調査 →結果に関する情報共有、状況改善 ・学校行事の精選、授業の振替え等 →2学期末に授業の実施時数を集計し実施率を算出	・授業見学会3回実施、生徒の自己評価87% ・授業実施率 24 昨年度と比べて若干増加した。	自己 B ----- A	・達成度は十分と思われる。 ・授業見学会は生徒、教員共に有益である。継続をして欲しい。 ・授業達成度は努力の跡が見られる。
学校生活全般を通して、基本的な生活習慣の確立と集団生活における規律向上を図る。	③全校集会を実施し、基本的な生活習慣の確立、いじめを含む問題行動や事故の防止、頭髪服装指導の実施 年間8回以上 ④校内、校外における交通安全講習会の実施 年間1回以上	・学校全体、学年、HRで共通意識を持ち連携 →効率的で公平な指導をおこなう ・交通安全に対する意識付け →県内の高校生の事故状況等を踏まえた内容	・全校集会でいじめを含む命の大切さについて指導することができたが、交通安全講習会が実施できていない。次年度は開催したい。	自己 B ----- B	・達成度に数値化されたものがあればわかりやすい。 ・性教育にも力を注いで欲しい。
「いじめは許されない」との共通理解の下、人権の尊重、支え合う人間関係を築く能力を養う。	⑤人権学習ホームルーム活動 年間5回実施 アンケートによる満足度 80%以上 ⑥いじめ等に関するアンケート実施 年間2回以上 「いじめと思われることを経験」 「いじめと思われる行為をした」を0にする	・人権学習ホームルーム活動 →全教職員による学習指導案提示とアンケートの実施 ・いじめや人権等に関するアンケート →実態把握に努め、迅速で適切な指導を行う	・HR活動は実施できたが視聴覚教材をもっと活用したい。 ・2回以上できたがHR活動に活用したい。	自己 B ----- B	・アンケート結果を生徒にフィードバックさせることが大切である ・いじめ、人権アンケートを三回実施してはどうか。
SDGsの推進と、主権者教育・消費者教育の充実を図り、生徒の実践力を育成する。環境教育・キャリア教育を推進する。	⑦環境美化に関する意識の向上と実践 ゴミの分別・リサイクル活動 年間3回以上 ⑧資格取得者の総数 90人以上 ⑨卒業時における生徒の進路決定率 90%以上 進路HR、進路ガイダンス 学期に1回以上実施	・生徒会によるゴミの分別、清掃状況の点検・評価 →定期的なリサイクル活動 ・刈払機講習会(1年生)、ビジネス文書実務検定(全学年)、漢字検定(全学年)、農業技術検定3級(2年生) ・進路指導についてのHR活動・進路ガイダンス →年間3回以上 3年生の進路指導の充実	・新たにペットボトルを資源化する運動を今年度より開始した。 ・各種検定合格者、合計95名 ・92%。3回以上実施した。	自己 A ----- A	・SDGs教育の推進に力を注いでいる。ゴミの分別は大切であり、継続して推進して欲しい。 ・資格取得に頑張っている。 ・進路決定率は目標値では100%に設定して欲しい。
特別活動の活性化と充実を図りIGAスクール構想推進と魅力ある教育活動を創造するとともに積極的な情報発信を行う。	⑩学校行事への主体的な参画と生徒会・部活動の充実と活性化 学校祭・収穫祭の充実 生徒へのアンケートを年3回実施、満足度80%以上 あいさつ運動 月1回実施 ⑪様々な場面での1人1台タブレットの活用とホームページでの情報発信 全ての教科等でタブレットを活用 更新年間110回以上	・学校行事の精選と計画的な企画・運営 行事に関するアンケートの実施→情報共有 生徒会等によるあいさつ運動の実施 ・農業関係や各課・各科・部活動等でのタブレットの活用と情報の発信 →保護者や地域と連携を図るわかりやすい情報発信	・アンケートを年4回実施。満足度、体育祭83%、文化祭94%、球技大会64%、収穫祭73%。 ・あいさつ運動は隔月に実施した。 ・実習を伴う科目においてもタブレットを活用できた。	自己 B ----- B	・校外で元気よく挨拶ができています。 ・文化祭の満足度が昨年より大幅に上がっている。 ・収穫祭は多くの卒業生が来校し教員との繋が

			・HP更新回数73回		りを感じた。生徒から率先して購入物を車まで運んでくれた。 ・HP年間更新回数110回は高い値なので下方修正しても良い。	
家庭や地域社会との連携・協働により、地域とともにある学校づくりを推進する。	全般	⑫檜原の棚田の保全活動 年間3回以上 ⑬販売実習 年間6回以上 ⑭地元産直市「よってネ市」での販売 野菜・果樹・草花等の農産物販売 年間35品目以上	・上勝町檜原の棚田の保全活動等地域の団体等と連携した活動の充実 ・野菜・果樹・草花・加工品等の生産と販売 ・産直市では年間を通して継続的に販売	・田植え、草刈、収穫3回実施 ・販売実習8回実施 ・38品目販売	自己 A ----- A	・保全活動及び販売実習は十分にできている。 ・販売38品目は素晴らしい。
	応用生産科	⑮6次産業化の取組をとおして地域産業を支える力を育成する 農家や企業、地元NPOとの連携活動 年間10回以上 ユコウを使った商品開発(年間1つ以上)及び商品の販路拡大、販売促進	・6次産業化実践教育ステップアップ事業 ユコウ等のジャムやマーマレードの品質改良及び販売 地元NPOと連携し野菜や果樹の栽培及び加工・販売 農家や企業と連携しユコウを使った商品の販路拡大及び商品の開発を行う	・連携活動年間11回 ・「恋柚香」を利用したお菓子の開発と販売活動3回	自己 A ----- A	・ユコウマーマレード金賞受賞は努力の結果である。
	園芸福祉科	⑯草花を活用して地域の活性化を担う力を育成する 交流学習の実施 年間8回以上 地元NPO等との連携交流活動 年間8回以上 ジンリョウユリの保全活動 年間3回以上	・草花の栽培をとおして地域との交流を深める学習をする 勝浦町内の施設等の花壇整備や小学校、保育園等との交流学習及び各種イベントへの参加・協力 バイテク技術による希少植物ジンリョウユリ等の組織培養及び那賀町木沢等への定植による環境保全活動	・交流学習13回 ・NPO法人10回 ・ジンリョウユリ保全活動3回実施	自己 A ----- A	・各交流活動は目標値を上回っており、継続した活動をして欲しい。 ・バイテク技術は難しいが、しっかりと活動ができています。